

クトゥルフ神話
TRPGシナリオ
「名前のない怪物」

yuki otoko

ユキ・オトコ

科学が発展し、多くの出来事が明るみになった現代社会においても人は超常的な現象を求め、キケンに足を踏み入れたくなる。

そんな快適だが退屈な現代日本にとあるうわさが流れていた。

- ・ そのショーがある日には口裂け女が出るといわれている
- ・ そのショーには本物の巨大な怪物が出演している
- ・ そのショーの狼男は普段人間として町に溶け込んでいる

その噂話には.....すべてその非合法のフリークショーが関わっている。

或る者は、興味本位で。

或る者は、確固たる信念を持って。

そして「あなた」は、「何かを想って」この噂のフリークショーを探している。

探索者たちは様々な理由でその噂を確かめるべく、そのフリークショーに足を運ぶのであった。。。

・フリークショー関係者

1 マネジャー兼オーナー

マネジャーではあるものの、実態は団員たちに気後れしている。社会的常識も持っているため不法に開催しているフリークショーに対しても後ろめたさもあり常に挙動不審である。

世間一般には「このフリークショーはあくまでファンタジーである」ことをことさらに強調している。「口裂け女」「警察」「エレファントマン」などには過剰に反応している。時折ちょっと意味不明な言動も行う。しかし、根は団員たちのことを気遣う優しい好々爺である。

2 団長

自身のことを語りたがらない奇妙な人物。その特殊なネットワークで大食い男やエレファントマンなどをこのショーへ呼び寄せた。常にマスクを被りその表情は読み取れない。オーナーでさえその正体をよく分かっていない。

ショーが始まるころにはリングに上がっている。そしていつの間にか新たな人材を連れてきていることがある。

3 大食い男

普通のおじさんに見えるが、自身の大食い体質にはちょっと辟易している。何でも食べられる異常体質である。見た目は普通の人間なので、大食漢のギャップに観客は度肝を抜く。基本的に誰に対しても優しいため、エレファントマンともコミュニケーション

をとる努力をしている。

4蛇女

見た目だけ先祖返りした蛇女。見た目だけなので魔術的素養も全くない。勿論その容姿では一般社会に溶け込めず、このショーに身を寄せている。自分だけが特殊な容姿を持って生まれたことに疎外感を覚えている。

夜な夜なショーの巡回の合間に街を徘徊しており、時々噂されている「フリークショーあらわれる口裂け女」とはこの人物のことである。徘徊している理由は「蛇女を治す手段」を探している。

5ひげ女

所謂「看板娘」である。自分の容姿と付け髭のギャップによりニッチなファンクラブが形成されている。普通の人間なのにこのショーに身を寄せている理由は「目立ちたいから」と「蛇女がいるから」である。

蛇女に対し蛇の表皮を持つことを除いた美しさに羨望と嫉妬を抱いている。

6人狼

月を見ずとも自在に変身できる狼男。しかし普段はただの人間としてフリーの出稼ぎなどを行っている。陽気な性格で、女たらしなところもある。しかし、自身の体質が人を不幸すると考え、深い付き合いは避けている。昔、ある女性と恋人関係にもあったが狼男と知られて逃げられる前に自分から身を引いている。

7エレファントマン

その姿は人間の容姿ではない、怪物のそれである。言葉を話せるのかすらわからない。いつの間にか団長に連れられてやってきていた。しかし、見た目の恐ろしさからフリークショーでの公開はされていない。

- ・フリークショー以外の関係者

8ひげ女ファンクラブ会長

ひげ女に対し狂信的な偏執症を持っている。彼女の命令には盲目的に従う。

9狼男の元恋人

狼男と一番長くつき合っていた女性。フリークショーにも時折観客としてやってきている。狼男が自分から離れていった理由（自分は一人の女に拘束されるのが嫌だ）を納得できていない。

10警察・マスコミ関係

「口裂け女」「エレファントマン」「人狼」すべてに関係のあるフリークショーのことを調査・取材している。

1探索者たちはフリークショーに接近する情報を得ることになる。
。（以下例示）

- ・ ひげ女ファンクラブ関係
- ・ 夜な夜な行われるフリークショーと口裂け女の噂
- ・ フリークショーの怪物が現れ、人が失踪・死亡している

2そのフリークショーに見学するもしないも自由であるが、その前後にかならず関係者と接触する。（1神話生物に呪われる2直に神話生物を見てしまう3殺人事件に遭遇する等）

3一連の噂が本物であり、自分にも危機が迫っていることを知った探索者はその解決を探る

4事件関係者として様々な方面から事件の糸口をつかむ。さもなければ、黒幕から間接的な支配をうけることになる

5「口裂け女」「エレファントマン」「人狼」からフリークショーに潜む黒幕を見つけだすか、事件に関わる呪いを解くことになる

6黒幕と対決・もしくは呪いを解く

7謎が残ったり残らなかつたりしてもエンディングへどうぞ

ストーリー上のキーポイント

- ・前段階で調査・取材をしていた警察・マスコミの誰かが死亡することで噂に信憑性が生まれ、探索者が真剣に取り組むようになる。
- ・そのうえで、いずれかの事件と探索者が接触してもよいかも。
- ・団長の前口上を聞く、団長に特設接触すると精神力対抗でKPの2D6+6に対抗しなければならなくなる。これに対抗できなければ探索者は一時的に催眠を受け、気づいた時には「目の前の本を開いていた」状態になっている。（呪われた）
- ・本作の楽しさは「怪しいやつがいっぱいいる」ことで「真に怪しい人物が誰か」を探さなければならないところではないだろうか？

人物

- ・マネジャー兼オーナーは蛇男の魔術師である。当時の魔術を記した書物を今も自室に保管している。蛇女・狼男の悩みを理解しているものの、エレファントマンの存在が自分の理解を超えているため、自身の身の安全のために身分を明かすことができない。彼の持つ魔道書から探索者たちの呪いを解くこともできる。
- ・団長は元吸血鬼のイゴーロナクの化身であり、様々な悪意を内外に放出し、その魅惑に取りつかれた人間を取り込むための装置としてフリークショーの仕組みを利用している。大食い男はその

異常性、エレファントマンは自身の偶像として価値を見出している。

- ・大食い男は元医者で自身の肉体を薬で変異させているうちに、この大食い体質を獲得している。そして、狼男に見せかけた猟奇殺人事件の実行犯である。神話的影響を一切受けていない生粋の狂人でもある。彼が死んだ場合、その肉体はグラークの従者として変質し、探索者たちに後ろから再度襲い掛かる。

- ・蛇女は一般人であるひげ女の親切さにある種の好意を抱いている。また、容姿のみと形容しているが、魔道書への理解力は並み以上である。

- ・ひげ女は完全に一般人である。しかし、うまく彼女を懐柔できればファンクラブを使った人海戦術も可能だ。

- ・狼男は、過去に家族を団長に殺害され自身も人狼として変質させられた元人間である。

- ・シナリオ中狼男事件の第二回被害者は狼男の元恋人である。狼男の真の姿を知ったうえで愛していたので、彼に食べられるなら本望と彼の後を追いかけていたが、彼がこの事件の犯人でないことを知り、疑惑を持った時に実行犯に食べられることになる。

- ・エレファントマンの正体は黒幕によって肉体のみを怪物化されてしまったただの人間である。その怪物こそ、「グラークの黙示録」に記された「イゴーロナク」である。

クトゥルフ神話TRPGシナリオ「名前のない怪物」

<http://p.booklog.jp/book/69337>

著者：ユキ・オトコ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/cthulhutrpg/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/69337>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/69337>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ